

につまってしまうた。

どうしても溢れる決を押えるこ
とが出来なかつたからだ。

こんなことは本当に久しぶりの
ことだった。

実は以前一度あった。やはり冬
でハツ阿弥陀岳北西稜フランチを
初登した時だった。

理由はいろいろあるだろう。だ
が私は頂に立てて本当にうれしか
った。

皆んなの感想も大体そんなもの
であったが、最後はやはり家族
特に妻さまに感謝するものが多か
った。

考えてみれば我々がこうして山
登りなど好き勝手なことを出来る
のも、宙守の間ガッチリと銃後(

家庭)を守ってくれる人がいてく
れるからこそである。

子供など特に我々の山登りなど
理解出来ない。

お父さんはどうして毎年お正月
に家にいないの? など云われる

と実にツライのだ。

それにしてもこの奥穂の頂上の
コンクリートで固められた壁は一
体なんなのだ。

むしろ北岳よ
り2m位高いとい
うことで作った
のであろう。

以前は無かつ
たと思うが、こ
れでは北アルプ
ス最高峰が泣い

てしまう。

北岳より2m位くても別に良い
と思うのだが...

下山は楽だった。アツという向
に穂高山荘に着く。ちやうど「ブ
ナ」も休んでいて交流。
「ガンちゃん」と「井深さん」に
温い飲物を差しあげる。
そして我々のBCの上にテント



B.C.にて